

「透析を必要とする患者が透析を受けながら、島で暮らしていくために町として出来る事」

問 大島医療センターでは透析患者の治療である人工透析は院内にある透析室で受け入れております。患者の状況や治療、家族への対応も含め、義母が透析4年～5年の間、お世話になり、家族側として、対応を日々、見てきましたので、ドクター、看護師、関係者の方々が一致団結し、よくしていただいていたから、感謝しかありません。本当によくやられておりました。

現在ですが、ベット数も限られており、受け入れられる状況は余裕もない状態であると、説明を受けたと、現在、透析を検討している島内在住の患者の方からお聞きしました。

患者受け入れも限界となっている現状に、人工透析を必要と迫られている島民の方からは不安の声があがっております。

福祉けんこう課にお話ししたところ、そのような問い合わせや悩んでいる声もあるとお聞きしました。

大島在住で透析を必要とする患者が島内で生活しながら透析を受けられるようにするために今後、町として出来ることは何かないの

か。

課題、クリアしなければならない事は何か。その為にはどのような手立てが考えられるのか、であります。

大島医療センターでは開設時より、透析治療が出来ておりましたので、島民にとっては有難いものであります。本当に安心出来る、島内で働き、なるべく普通の生活しながら、治療できると思っておりました。

今回、このような現状に、悲痛な住民の声から一般質問することとしましたが、以前から将来をみすえた場合には、医療センターの担当者様も町の担当課としても課題となっていたことでしょう。

改めてお聞きします。

今後、透析を必要とする患者の方の中には、島外の医療機関で透析を考えなければならない状況がふえてくるのでしょうか。島を離れての生活をしなければならない方が増えてくるのでしょうか。生活費用に余裕のない状況の場合、どうしたらいいのかと悩んでいる住民の方はどうしたらいいのか。その方々のかわり質問いたします、

透析室のベット数を増やすことは可能なのでしょうか。ドクター、

看護師の人員確保が課題なのでしょうか。何かそれ以外にも課題があるのでしょうか。その解決のために町として解決する術は何もないのでしょうか。お答えください。

もし、どうしても、島を離れての透析治療が、即刻、必要な場合の方には、家賃補助という形など町として出来る事はないのでしょうか。

この課題に対して、福祉けんこう課長には、現状を医療センターの関係者の方々に問い合わせしていただき、将来にわたる考え方や、今後、考えられる手立てについてもご意見をお聞きし、そのうえでご回答をお願いしたいと思います。

さらに、三辻町長には早急に対応を進めなければならないことがあれば、現町長としてやれることに対応できるか。指示していただければと考えます。お考えをお聞かせください。

答) 福祉けんこう課長

現在、透析患者の受け入れについては、月・水・金の午前と午後、火・木・土の午前という枠組みで提供しており、全体で25名の方が利用しております。

議員からご指摘のあった大島医療センターでの人工透析患者の受け入れについては定員数の問題から透析開始の日程を調整させていた

だいた方がいたことを確認しております。

その調整していた方の順番待ちについては、既に解消しております。

また、今月中には自己都合の島外への転出などの空きが出る予定もあることから、当面の間は、島内で透析が受けられない事態は、回避できるとの報告を医療センター透析室担当者から受けております。

安易に島外で透析が必要との表現については、ご心配をおかけした方にお詫び申し上げます。

今後、想定を超えた患者が急増した場合には、医療センターでの受入れ数の拡大、たとえば火・木・土の午後の枠の活用、それに伴う職員の確保と送迎バスの運行、また10床あるベットの利活用の見直しなどを行い、島外で人工透析を受けざるを得ないケースをうまないよう、医療センターと連携・協力してこの課題に取り組んでまいります。

また、例として、島内でできず、島外の医療機関で人工透析をする方への家賃補助については、参考までに島しょ町村担当課に確認したところ、全ての町村で補助はしていないということでした。

当町においても、負担軽減についての検討は必要と思われませんが、財政的負担の問題から実施することは難しいと思われます。

まずは、このようなケースをけしてうまないよう、医療センターとともに対応策を検討・協議してまいります。

答) 町長

人工透析関係の質問について、お答えします。

私も福祉けんこう課長と同様の考えです。

私は医療センター開設前後、担当係長でしたが、当時もし透析患者が増えて対応できなくなったらどうしようかと、医療センターのスタッフと検討した覚えがあります。その時は医療センターとしても、スタッフを増やして夜間も診察して、極力、島内、医療センターで対応するしかない、と議論を取り交わしたことを思い出しました。

いずれにしても透析患者が増えた場合、福祉けんこう課長も答弁しておりますが、医療センターと連携、協力してスタッフの確保など創意工夫して島内で対応しなければならないと思います。

もし、どうしても島内で対応できなくなった場合、任期満了間近の私がこのような発言をして良いのかわかりませんが、島内透析患者との格差是正を図るためにも何かしらの支援制度は必要となるかもしれません。